なかとんべつ 町議会だより

Volume 237
令和8年10月23日発行



牧草の上でなかよくお昼寝　写真提供：星川園子さん

第３回定例会議決された議案等 …… 4
第４回・第５回臨時会 …… 5
私たちの一般質問 …… 6
いきいきふるさと常任委員会工事視察 …… 9
令和７年度決算審査特別委員会 …… 10
議会の動き・行政視察受け入れ（久留米市議会）
あとがき …… 16



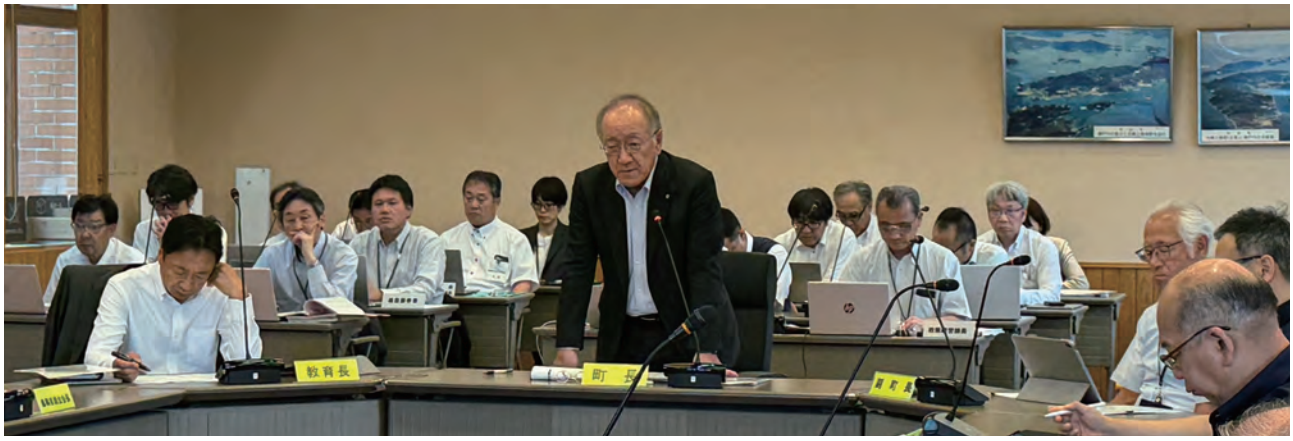
議会トピックス

１．国保病院の有床診療所への検討開始。
２．中頓別学園を含む新施設の愛称「ゆるっと」に決定

１．今定例会の一般質問では、２名の議員が国保病院の有床診療所化に向けた動向や財政状況、施設運営の方向性について質問しました。町長は、病院の見直しは医療福祉一体の改革の一環で重要なものであり、有床診療所への移行後も変わらない医療提供を目指すことや、看護体制の見直しによる柔軟な運営のメリットを町民に説明し意見を聞きながら進める方針を示しました。また、介護医療院については廃止し、有床診療所へ統合する予定であると答弁されました。

２．教育長からの教育行政報告で「（仮称）人生１００年の学びの拠点」の愛称を「ゆるっと」と決定したことについて報告がありました。

　愛称決定までのプロセスや「ゆるっと」に決定した理由、また施設では幼小中一貫教育の実現、子どもから高齢者まで町民の皆様が集い、学び、交流する地域全体の学びの拠点となるよう整備を進めており、愛称「ゆるっと」に込める思いや今後町民の皆様に親しまれ、世代を超えて人が集まる、中頓別町らしい「人生100 年の学びの拠点」として育てていきたいと考えていることについて報告がありました。



令和７年第３回定例会が、９月８日から11日まで４日間の日程で開催され、初日の行政報告で小林町長は、次の１点について報告をしました。

１．令和８年度普通交付税の決定について

本町の普通交付税について、国の算定基準に基づき算定した結果、21億1,596万4千円（前年度21億1,093万4千円）となり、前年度との比較で503万円（前年度比0.2%）の増額となりました。増額となった主な要因としましては、公債費、臨時財政対策債償還基金費などの伸びにより基準財政需要額が6,405万1千円の増となったこと。また、昨年度は12月に国の補正予算に基づき、3,591万7千円が追加的に交付されたため、昨年度と比較すると微増となったことについて報告しました。

大島教育長の教育行政報告でも１点の報告がありました。

１．（仮称）人生１００年の学びの拠点の愛称決定について

現在整備を進めている「（仮称）人生１００年の学びの拠点」の愛称を「ゆるっと」に決定しましたのでご報告いたします。

本年６月に愛称を募集し町民や子どもたちから110件のアイデアが寄せられ、施設のコンセプトや親しみやすさ、将来にわたる使いやすさなどの観点から選考により決定しました。この「ゆるっと」が選ばれた理由に加え、「人が集まりたくなる印象」や「世代を超えた親しみやすさ」についても高く評価され、今回の決定に至ったものです。この施設は、幼小中一貫教育の実現と子どもから高齢者まで地域全体の学びの拠点となるよう整備を進めているところです。愛称「ゆるっと」には、誰もが肩の力を抜いて気軽に集い、そこから新たな出会いや学びが生まれてほしいという思いを込めています。今後、「ゆるっと」という愛称とともに、町民の皆様に親しまれ、世代を超えて人が集まる、中頓別町らしい「人生100年の学びの拠点」として育てていきたいと考えています。

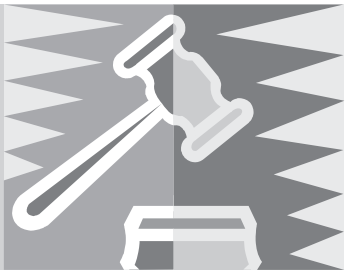
初日の報告で「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（財政健全化法）に基づく健全化判断比率では、本町は令和６年度決算で実質公債費率が０.２％（健全化判断基準２５.０％）となりました。

また、資金不足比率等の報告では、いずれの会計も資金不足が生じておらず、資金不足比率は算定されないと報告がありました。

一般質問では、通告順に３議員が、本町の抱える諸問題について、町長に所見を質しました。

令和７年度一般会計ほか８会計の決算は、全議員で構成する「決算審査特別委員会」（蓮尾委員長）に付託され、会期中に審査を行いすべて認定されました。

第３回定例会で決まりました



議決された議案等

◎議案第62号　子ども医療費助成に関する条例（一部改正）

北海道医療給付事業補助金交付要綱との整合性を図るための改正、第三者行為による助成の制限及び、目的外使用の禁止を追加するもの。

◎議案第63号　障がい福祉サービス利用者への交通費助成に関する条例（一部改正）

３歳未満の乳幼児について、療育手帳の所持にかかわらず、障害福祉サービスの受給者証を有する者について助成対象に含めるよう改正をするもの。また、助成対象者について、同居する親等に町税等の滞納がある場合、助成対象から除外となる規定を必要な支援を受けられる環境を確保するため改正するもの。

◎議案第64号　印鑑の登録及び証明に関する条例（一部改正）

在留外国人の個人番号カードとしての機能が付加された特定在留カード又は特定特別永住者証明書を提示して印鑑登録証明書の交付を申請することができるよう改正をするもの。



◎議案第65号　一般会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ６，２６８万２千円を追加し、歳入歳出の総額は99億８，６７８万８千円に。

歳出の主なものは、農業次世代人材投資事業補助金２４８万円、経営発展支援事業補助金５６３万円、哺育育成センター運営委託料１，９１０万円、林道弥生線漏水修繕工事２２０万円、道路施設予防保全工事５５０万円、公共施設整備等積立金１，３０１万円などを追加するもの。

◎議案第66号　国民健康保険事業特別会計補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ１８５万円を追加し、歳入歳出の総額は１億９，０５４万８千円に。

歳出は、北海道クラウド運用負担金１８５万円を追加するもの。



◎議案第67号　国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額の補正はなく、支出の委託料の組み換えを行うもの。

◎議案第68号　水道事業会計補正予算

収益的収支の収入支出既決予定額にそれぞれ１０７万４千円を追加し、総額は１億６，０３６万円に。

歳出の主なものは、配水管修繕１００万円を追加するもの。

◎議案第69号　介護保険事業特別会計（保険事業勘定）補正予算

既定の歳入歳出予算額にそれぞれ１，４１５万７千円を追加し、歳入歳出の総額は２億５，１５５万８千円に。

歳出は、主に道に対する介護給付費負担金の返還金に１，４１５万を追加するもの。

◎議案第70号　介護保険事業特別会計（施設介護サービス事業勘定）補正予算

既定の歳入歳出予算額の補正はなく、需用費、役務費及び公課費をそれぞれ組み換えを行うもの。

以下は報告案件

◯報告第６号　令和７年度健全化判断比率の報告

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」（財政健全化法）の規定により、監査委員の意見を付して議会に報告するとともに住民に公表されるものです。

①実質赤字比率　算定なし（基準15％）
②連結実質赤字比率　算定なし（基準20％）
③実質公債費比率　０・２％（基準25％）
④将来負担比率　算定なし（基準350％）

【監査委員の審査意見】

実質公債費比率は平成22年度から早期健全化基準を下回っているが、今後とも公債費比率の逓減に努め、財政の健全化を図られたい。

◯報告第７号　令和７年度資金不足比率の報告

審査の対象となった病院、水道、下水道会計の資金不足比率（基準20％）は、いずれも算定されない。

第４回臨時会結果

令和８年第４回臨時会が７月１日招集され、議案１件を可決しました。

◯議案第60号　工事請負契約の締結（一部変更）

中頓別学園整備工事請負契約の変更

※◯は原案可決

第５回臨時会結果

令和８年第５回臨時会が７月24日招集され、議案１件を可決しました。

◯議案第61号　工事請負契約の締結

中頓別学園整備工事請負契約（冷房施設追加工事）

※◯は原案可決



ホームページで議事録などを公開しています

中頓別町のホームページ（http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp）で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。

町ホームページから　**中頓別町について** ⇒ **中頓別町議会**
又は、**行政情報** ⇒ **議会** へ進みご覧ください。

議会はみなさんの暮らし、福祉などの身近な問題を議論する大切な会議です。

議会日程や傍聴、請願・陳情などのお問合せは、℡6－2244（議会事務局）へ。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

蓮尾純一議員



質問　病院の診療所化へ向けた動向は

病院の診療所化について、町民へいつ、誰が、どのように説明・周知したのか。診療所化は既定路線なのか、町長との情報共有は十分だったのか。また、検討開始後に町民全体へのヒアリング機会が設けられていない中、町民の理解度をどう認識しているのか伺う。

答　弁　○小林町長

病院の見直しは令和3年策定の基本方針に基づく検討で、決定事項ではない。医療と介護が連携し、地域で暮らし続けられる体制を目指すもので、従来の医療機能は維持する。説明機会を増やし町民の意見を聞きながら、医療・介護一体のあり方を十分に議論して進め、有床診療所は先行して進めます。

質問　町内公園の整備状況と、検討と答弁したその後は

老朽化した町内公園の遊具更新について、これまで「検討する」とした整備の進捗と今後の改修予定を伺う。また、屋内遊具施設やアーバンスポーツ施設について、その後の検討状況と実現可能性を確認し、子育て世帯の要望を踏まえた明確な方針を求める。

答　弁　○小林町長

老朽化したメモリアルパークと旭台公園の遊具は撤去した。寿公園は遊具更新を進め令和9年度から供用予定。屋内遊具は作らず中頓別学園のホール活用を代替として進める。アーバンスポーツ施設は高額な整備費等から直ちに整備することは困難である。今後は公園等の整備につき室内施設を優先検討し、利用実態や地域ニーズを踏まえ方向性を検討する。

質問　事業予算と行財政改革について

町長就任後に一般財源で新規予算化した事業について、外部識者が関わった事業の具体的成果が当初の目標や町民ニーズと一致しているのか伺う。また、学園事業による町民生活への影響と情報提供の方法、行財政改革として日常業務の無駄を精査し、さらには業務効率化を進める考えがあるかを問う。

答　弁　○小林町長

外部有識者が関わった事業は、総合戦略上のＫＰＩ（※）達成や人口減少の鈍化などから目的を果たし結果も町民と共有していると認識している。町民ニーズはアンケート等で継続的に把握している。行財政改革は町民生活に影響の少ない内部管理経費削減を軸に、業務の整理や効率化、広域連携、業務改革、アウトソーシング等を進める。

※ＫＰＩとは
重要業績評価指標とよばれ、自治体が政策や事業の進捗・成果を数値で追うためのもの。

宮崎泰宗議員



質　問

ハイヤー乗車券の取り扱いと事業者の確保、地域交通の今後について

現在、長年に亘って地域交通を担ってきた中頓別ハイヤーの運行が停止している状況で、利用者から早期の再開を望む声やハイヤー券の使用に対する心配の声が多く上がっているものと思われる。この点、町としても事業者の継承に向けて動いてきたところだと思うが、どのような状況か。年度内に再開されない場合、十分にハイヤー券を使い切れない可能性もあるのではないか。ライドシェアやデマンドバス料金への適用、次年度への持ち越しなど、再開されない状況への対応はとられているのか。また、今後さらに町内タクシー事業の継続が困難となった場合、現状の選択肢でどこまで対応していけるのか。市街地も含め町内全域を網羅できる地域交通を担う地域おこし協力隊や集落支援員の複数配置、官民連携したライドシェアドライバーの大幅動員、人も荷物も運べる輸送の仕組みなどの検討や取り組みを加速させていく必要があるのではないか。

答　弁　○小林町長

中頓別ハイヤーは6月から事業を休止しており、事業者の方から再開は困難で廃業または事業承継の意向と伺っている。町としては、商工会等と連携して承継先を募集し、ハイヤー事業の継続に向けて伴走支援することとしているが、仮に事業承継がスムーズに決まったとしても、車両の調達や道路運送法の手続き等により、一定の期間を要することが想定されることから、その間の暫定措置として、事業承継先の募集に平行して、自家用有償旅客運送による、ハイヤー機能の維持に向けて検討を進めている。自家用有償旅客運送とは、いわゆる白ナンバーの車両で有償による運送が可能となる仕組みで、町が実施主体となって中頓別ハイヤーへ運行を委託する形で調整しており、車両については公用車を使用し、配布済みのハイヤーチケットも利用できるよう整理し、年内を目標に運行開始を見込んでいる。それまでの期間は、できるだけ町民の皆様の不便を軽減できるよう、既存のなかとんべつライドシェアドライバーのみなさんにもご協力いただき運用を充実させていきたい。ご質問いただいた町内全体としての公共交通のあり方に関しても、長期的な方向性として検討を進めていく。

答　弁　○長尾政策経営課長

自家用有償旅客運送は特別な制限なども無く、事業者におけるハイヤー営業等と同等のサービスが提供できるものと認識しているが、今ある公用車を使うことになるので、料金の支払いについては、メーターではなく時間や距離を確認して行われる形になるものと思われる。この有償運送を中頓別ハイヤーに委託する形については、今年度内いっぱいと考えているが、承継先が決まらない状況が続く場合には、可能な範囲で継続をお願いしていく。今後の広報活動や情報収集等、承継先の確保につながるよう取り組んでいきたい。

質　問

財政状況と施設運営の方向性、歳出削減、歳入増加の取組について

中頓別学園を含む新施設の工事費は6月定例会で4億円が追加され予算上で57億円となり、さらに財政負担が増える状況である。

今回、この新施設の愛称を決定したとのことであるが、施設愛称等の命名権は新たな収入につながる可能性がある。活用しないのか。

9月定例会は前年度決算を審査する場であるが、この状況を踏まえた上で、町民センターと給食センターの解体等、今後も計画通りの敷地整備まで行える見通しはあるのか。周辺の老朽化した施設の機能維持についてはどのようにお考えか。12月には病院を有床の診療所へとダウンサイズする考えであるとのことだが、この狙いについても改めて説明していただきたい。開設されてまだ4年ほどの介護医療院はどうなるのか。長寿園の運営形態についても大きく変える考えがあるように思われるが、どのような方向性を持っているのか。

答　弁　○小林町長

物価の高騰、人件費や金利の上昇、新施設の建設費負担も含め大変厳しい状況と言えるが、前年度決算等の数値を踏まえ、鋭意検討中である行財政の改革案を反映させたシミュレーションと現実的な財政の見通しを議会並びに町民の皆様に提示していきたいと考えている。

町民センターと給食センターについては、来年度において両施設を解体することとしており、両跡地は駐車場として次年度以降の整備を予定している。周辺の老朽化が進んでいる施設についても近い将来の廃止を含め関係団体や学校などと協議を進めていくことになるが、旧幼稚園ゆめくらぶについては、保存書類や備品などの保管庫として活用していく。

病院から有床診療所への移行について、このようなスケジュールで十分な説明の機会を設けられていないことはお詫びしなければならない。診療所は

病院に比べて規制も少なく機能を停止せずに柔軟な運用が可能であることから、現状の医療サービスを維持した上で、財政的な効果を早く出すためであるが、移行までにできるだけ多く説明の機会を設けていきたい。有床診療所では夜勤体制を看護師1名と介護職1名で運用し、外来と病棟を分けずに一元化していく等の効果が最大化するまで時間はかかると思うが、人件費の削減と交付税措置を加味すると、年間で約8千万円～1億円程度の赤字の圧縮に繋がると見込んでいる。

介護医療院の開設当初は、看取りや特養入所者の待機待ちの緩和、赤字圧縮の効果も出ていたが、現状は看護師不足により新規利用者の受け入れを抑制する状況となっており、昨年度は派遣看護師等の経費が増加し病院単体の時と変わらない収支になってしまった。入院数と介護医療院入所数の状況からも、有床診療所にまとめることが最善と判断した。

長寿園については、特養と養護の統合や在宅サービスのあり方を含め、国が進める中山間地域での新たな仕組みづくりなども見据え、必要な見直しを進めていきたいと考えている。

答　弁　○大島教育長

ご指摘の町民体育館は、新施設の建設に伴って維持が必要な体育館が増えることになり、山村水泳プールも修繕を繰り返している状況だが、少額の負担で対応できる間は延命して維持することも考えている。新施設の名前について、今回、愛称を「ゆるっと」と決定した。正式名称よりも先にはなったが、名称自体の活用も含め、親しまれる施設にしていきたい。

髙橋憲一議員



質　問

第8期総合計画の経過と、行財政改革について

第8期総合計画の折り返し地点にもうすぐなる訳ですが、計画の進捗状況と、計画から除外された事業はいくつあったのか。計画立案及び新規に計画された中頓別学園事業に至るまでのソフト面の委託事業は何件で、総額の委託料はいくらか。

計画が変更された経過は、町の実態にそぐわない計画でなかったのか。それは外部のコンサルにわが町のことを考えさせた結果であり、隠れた人件費とも言われるコンサルに任せるなら、職員は要らないわけで、それを今更のように行財政改革と言っても、町民には白々しく映る。町長の見解を伺う。

答　弁　○小林町長

前期実施計画において、8回の変更を行い、新規搭載が11本、追加変更が21本、終了削除が3本です。

委託事業は、国の補助金の獲得要件や、専門性の見地から活用してきました。他人任せということでは決してなく、職員と専門知識の融合による実効性のある計画を構築するためです。計画の変更は現実との乖離を反映させ、実効ある計画に変更したものです。

質疑・質問は要約されています

スペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。

議会を傍聴しましょう！

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。

議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、12月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

多くの町民のみなさまの傍聴をお待ち申しあげております。

いきいきふるさと常任委員会工事視察　9月11日

　いきいきふるさと常任委員会（長谷川克弘委員長）は、所管事務調査として町内工事現場視察を実施しました。

調査事項

①町内工事視察
・哺育育成センター
・中頓別学園整備工事

哺育育成センター







中頓別学園整備工事







令和７年度　決算審査特別委員会



町の各会計の決算は、地方自治法の規定に基づき、監査委員の意見を付して議会に提出され、認定の可否を決めるものです。

議会は予算が適正に執行されていることを審査するとともに、住民に代わって行政効果を検証します。

第３回定例会では、全議員で構成する「決算審査特別委員会」（蓮尾純一委員長）が設置され、休会中に各会計決算を審査し、令和７年度の一般会計をはじめとする８会計すべての歳入・歳出決算が認定されました。

実質公債費比率０．２％
基金残高17件、33億４千３百万円（一般会計）に
全会計決算を認定

決算審査のあらまし

一般会計はじめ、全会計の歳出総額（表１）で79億９千８１５万円にのぼる令和７年度歳入・歳出決算の審査が終了しました。

一般会計の決算規模は、前年度に比べ、歳入で約13億９千８百万円、歳出で約14億７百万円増加しています。

地方交付税は、令和６年度の22億８千２百万円から約６千５百万円増の23億４千７百万円となり、一般会計の歳入総額61億９千万円に占める割合（依存度）は約38％になっています。交付税増加の主な要因は普通交付税の増によるものです。

実質公債費比率は、０・２％（表３）になっています。

比率の算定には不透明な部分が多い交付税が算入されるため、将来の不測の財政負担に備え、今後も行財政改革を進め、本町の歳入に見合った比率を維持するよう、努力を続けなければなりません。

歳入では町税、使用料等の収入未済（滞納額）が、前年度に比べ２百24万円増加しており、不納欠損額（町税等が徴収不能と判断された金額）は53万６千円なっています。

一般会計の基金では、財政調整基金をはじめとする17基金の合計で、前年度末に比べ３億８百万円減少し、33億４千３百万円となりました。基金が減少した主な要因は、財政調整基金４千８百万円、長寿園施設改修拡張事業基金２千７百万円、公共施設整備等基金６千９百万円、地域活性化基金９千６百万円、地方創生基金４千２百万円をそれぞれ取り崩したことによるものです。

町全体の公債費の借入（元金）残高（表２）は、中頓別学園整備事業（繰越明許含む）９億３千２百万円、草地整備型公共牧場整備事業８千１百万円、中頓別弥生線交付金事業１億３千９百万円などを借り入れたことにより、令和７年度借入額が19億３千４百万円となり、償還額が６億３千９百万円、この結果、前年度末に比べ12億９千４百万円増加し、77億９千９百万円になり、町民一人当り約５５７万円の借金額は前年度と比較し約１０８万円増加しています。

特別会計への繰出金は、前年度に比べ４千２百万円減少し、６億７千１百万円になりました。水道事業会計の辺地債などの減が主な要因です。

特別会計の運営は、それぞれの収入によって支出を賄う独立採算が基本ですが、実態は一般会計からの繰入金によって収支のバランスを保っている大変厳しい状況であり、このことは今後も続くことが予想されます。

決算審査特別委員会では、９月９日から10日にかけて全議員による審査を行い、認定第１号一般会計から、認定第10号後期高齢者医療事業特別会計までの８会計の令和７年度歳入歳出決算について、全会一致で認定すべきものと決しました。



歳出総額７９億9千８１５万円

（表−１）令和７年度　一般会計及び特別会計の決算状況

（単位:円）

会計区分		予算額	決算額 歳入額	決算額 歳出額	決算額 差引額	翌年度へ繰越すべき財源
一般会計		6,448,182,000	6,188,876,672	6,070,938,952	117,937,720	17,164,000
特別会計・公営企業会計	自動車学校事業特会	67,629,000	64,310,810	64,210,128	100,682	
	国民健康保険事業特会	236,116,000	180,387,540	173,500,612	6,886,928	
	介護保険事業特会（保険事業勘定）	226,736,000	247,270,099	189,419,633	57,850,466	
	介護保険事業特会（介護サービス事業勘定）	58,242,000	57,453,386	57,382,088	71,298	
	介護保険事業特会（施設介護サービス事業勘定）	227,412,000	222,133,371	222,019,290	114,081	
	後期高齢者事業特会	38,900,000	38,830,192	38,717,623	112,569	
	国保病院事業					
	（収益的収支）	610,305,000	489,005,555	587,616,224	▲ 98,610,669	
	（資本的収支）	17,068,000	11,521,000	17,066,486	▲ 5,545,486	
	水道事業					
	（収益的収支）	166,842,000	162,267,286	162,265,641	1,645	
	（資本的収支）	154,252,000	120,683,720	148,682,581	▲ 27,998,861	
	下水道事業					
	（収益的収支）	142,033,000	133,404,002	133,374,319	29,683	
	（資本的収支）	179,493,000	119,085,000	132,952,696	▲ 13,867,696	
合計		8,573,210,000	8,035,228,633	7,998,146,273	37,082,360	17,164,000

（表−２）公債（町債元金）借入残高の状況

（単位：千円）

区分	令和６年度末	借入（発行）額	償還額	令和７年度末
一般会計	5,688,062	1,872,700	542,320	7,018,442
水道事業特別会計	458,729	28,500	39,660	447,569
下水道事業特別会計	263,784	28,300	49,604	242,480
国民健康保険病院事業会計	94,568	3,900	7,442	91,026
合計	6,505,143	1,933,400	639,026	7,799,517

（表−３）財務指標（普通会計）

（単位:①～③%、⑤～⑦千円）

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
①経常収支比率	61.9	64.1	63.5	67.9	毎年経常的に収入される財源のうち、経常的に支出される経費の割合
②実質公債費比率（単年度）	△ 0.7	0.4	△ 0.8	1.2	
③実質公債費比率（３ヵ年平均）	△ 1.0	△ 0.3	△ 0.3	0.2	
④財政力指数	0.106	0.105	0.108	0.110	財政力の強弱を表す指標で、1以上は普通交付税の不交付団体
⑤標準財政規模	2,355,858	2,331,504	2,358,285	2,423,838	ある程度均衡の取れた行政サービスを行うために必要な一般財源の規模
⑥基準財政収入額	243,653	244,166	257,712	265,171	収入が見込まれる税金など
⑦基準財政需要額	2,292,038	2,280,423	2,315,762	2,376,105	一定の行政サービスを提供するために必要な財源

決算審査特別委員会
主な質疑
一般会計

総務費

問 宮崎委員

人事管理事務事業の職員数の関係で、前年度と今年度の状況を会計年度まで含めた全体の実数としての増減の状況を伺う。

答 総務課長

採用難というところがあり、若干減っている傾向にはあります。令和６年度に長寿園が入ったことで増えていますが、長寿園で退職者が出ていますので、減少傾向にある。年代がまとまった職員構成になっていますので、それを踏まえながら、採用を考えていかなければならないと思います。

問 長谷川委員

町民活動支援・展開事業の町民アイデア「７つのアクション」ということで第８期総合計画で７つのグループが活動していたと思うが、昨年度、何グループが活動し、どれだけ予算を使っているのか伺う。また、予算をかけた分の恩恵が感じられないのですが、そこはどうお考えか伺う。

答 政策経営課まちづくり担当課長

町民活動支援・展開事業のうち「７つのアクション」のフォローアップとしては約３００万円程度の費用を投じ町民活動をフォローしており、ご指摘を受けたことについては改めて各チームの方と打合せを重ねながら活動を展開していきたいと思います。

問 宮崎委員

町の公式ラインについて、令和７年度から本格的に運用されていると思うが、お知らせなどが少ない印象があり、多いとやめられてしまうということもあるかもしれないが、運用の関係で意図的なものがあるのか伺う。

答 総務課防災・行政デジタル化担当課長

運用に関しては各担当課に任せており、イベントであったりだとか、そういったものをどんどん発信してもらいたいなと思っていますが、行政というところで何でも発信できるというわけではなく、最初にラインで発信するというのは難しく、ホームページでしっかりした情報があった中でラインで二次的な報告をするというような流れになると思いますので、その辺で、なかなか利用されていないのが現況です。

問 星川委員

税金の滞納ですが、町職員は徴収に関して努力していると思いますが、なかなか件数が減らない。逆に増えている感じもしており、これは全国的な問題でありますけれども、現状どのように徴収の努力をしているのか伺う。

答 総務課住民担当課長

昨年は会社に関する固定資産税が大きく残り、それに加えグループの体制が弱かったり、システムの入れ替わりの対応などいろいろ重なったこともありますが、随時督促などは発送しており、加えて電話や庁舎内に来庁した際の声かけなど行っています。

問 宮崎委員

ふるさと納税の関係で令和６年度と令和７年度を比較すると実入りとしてはどちらも７００万円ぐらいで納税額は低いが令和７年度のほうが割にいいということで、制度が変わったりで自治体に入る金額の割合が増えたというところがあるかと思うが商品自体にも何か変化があったのか伺う。

答 政策経営課長

ふるさと納税の返礼品と寄附額が徐々に変わってきているというのもあり、サイトや業者等とも協力をしながら取り組んでいることが若干実を結んだものと思っています。様々なサイトとそれを結びつけてくれる業者、どのサイトで納税があるかによって寄附額が大きく変動する場合があり、年によってばらつきが出てしまうということはやむを得ないことだと思っています。そういったことが要因として、令和７年度は寄附額は伸び悩んだが、少しでもふるさと納税を増やしてもらう取組を続けています。

問 蓮尾委員長

儀式典礼事業で神社祭について町より支出されているが、地方公共団体、地方自治体が神社の祭り等に補助金を出すという行為は憲法に違反するという過去の判例もあり、どのように支出がなされているのか伺う。

答 総務課長

神社祭の支出については、神社祭の実行委員会に支出しているものではなく、立ち寄ってもらったときのお供えを準備するもので、果物やお魚、米だとかの支出のみとなっています。

衛生費

問 宮崎委員

インフルエンザが今世界的な流行になっている。例年より３か月も早く広がってきているような状況の中、国より各自治体に早めの予防接種実施を言われているとの内容もあったが、中頓別町としてはどのような対応になるのか伺う。

答 保健福祉課長
インフルエンザの流行が早まっているということで、病院と接種の体制を進めるよう検討し、早めに接種できる体制にしていきたいと考えています。ワクチンの供給がどうなるか見えてこないところもあり、それに対応しながら実施していきたいと思います。

問 蓮尾委員長
保健福祉課での申請手続について職員側のミスにより認定が遅れたり、不都合が生じる事態が多々認められるといった状況であると聞いているが、どの程度そういった事案が生じているのか伺う。過去にもそういう事案があり改善が見られないようで、その部分というのはどういうふうにケアを考えているのかを伺う。

答 保健福祉課長
認定が遅れて町民の方にご迷惑をかけたというケースは、昨年度は多くはなかったと思いますが、障がいの申請と給付金の関係で数名の方がいることは認識しております。過去の事案に関しては、現在担当している職員が精査し対応しているので、これ以降はないという認識でおります。

答 小林町長
中頓別町に限らず多くの自治体でこういった課題を抱えています。職員が複数の業務を持ち、若い世代の退職や従前のような人に経験、スキルが蓄えられない中で事務処理をしなければいけないということで起こっていることかなと思います。業務としてしっかりマニュアル化をするということが不可欠で、ＩＣＴ（※）の活用によりそういうことに取り組める環境もつくっているので、活用していくということがあると思います。宗谷管内でも議論していますけれども、専門的な知識を各町村が持つのも大変になってきているので、広域でできる業務等をまとめながら、広域対応ということも検討していくことになると思います。

必要な手続についてすぐ対応できていなかったり、担当職員がきちんとした認識を持たず、逆に混乱させてしまったというような事案があったり、これは重大な事案と認識しています。それだけではなく、保険料の徴収等に関してしかるべき時期に手続されていれば特別徴収になったのに、普通徴収になってしまったりだとか、そういったことも含めて多いと思います。保健福祉課に関しては、職員数は増えてきているところはありますけれども、マニュアル化とジョブローテーション（※）などを構築しながら、ミスのない現場をつくっていかなければいけないと認識しております。私も何度か直接住民の方におわびをしに伺ったりしたことがありますが、今後そういうことがないように業務の体制を構築していきたいと思います。大変申し訳なく思っております。

※ＩＣＴとは
情報通信技術とよばれ、コンピュータや通信ネットワークを使って情報を扱う技術や仕組み全体を指す。

※ジョブローテーションとは
計画的に職員を異なる部署や職務へ異動させる人材育成の仕組み。

農林水産業費

問 星川委員
猟友会より目の前に出ているヒグマを捕獲できないという苦情が寄せられている。３年前までは相当捕獲していた頭数が今は少なくなってハンターも苦労しているようで、どのような手順を取っているのか。連絡してもすぐ許可が出ないということも言われており その点伺う。

答 産業課長
ヒグマにつきましては、捕獲、見つけたからすぐ撃つという流れではなく、民家周辺とか被害があるなどの報告があった段階で猟友会と協議しながら対応する流れで、いきなり撃つという形では進めていない状況です。目撃情報が頻繁に出ており被害が想定されるという地域については、猟友会と情報共有しながら捕獲を進めてもらう形を取っているところです。

問 宮崎委員
なかとんべつ観光まちづくりビューローの関係で、事業費的には1億円規模になると思うのですが、事業収入の中で内部留保はどういう状況でしょうか。設立の際、内部留保がたまってきたら、事業費を自分たちで捻出すると言っていたと思いますが状況を伺う。

答 産業課商工労働・観光まちづくり担当課長
ビューローの経営状態につきましては、年々厳しくなっており、利益が出て、会社的にも安定できるような組織になるよう、価格改定や事業の再構築等も見直して、鋭意努力している最中です。

問 長谷川委員
鍾乳洞について、昨年8月の大雨による土砂流入等でそれ以来閉鎖が続いているとは思うが、復旧の見通しと今後の開園の予定などはどう計画されているのか伺う。

答 産業課商工労働・観光まちづくり担当課長
現在は開園に向けて土砂の撤去と、ルートの改修、そういったものを事業者と調整しながらやっています。現時

点で開園の見通しを立てるのが難しく、今年度の開園というのは厳しい状態であります。

土木費

問 星川委員

公営住宅ですけれども、公営住宅に網戸等がついているのか、それとも最初からついていないもので、つけるのは個人負担なのか伺う。

答 建設課参事

公営住宅や町有住宅の設備に関して、もともと設置されているものにつきましては修繕、補修等は管理している役場が実施し、網戸に関しては、もともと設置されているものが多く、役場で修繕しています。暑さもあるので、すぐ対応するようにしております。

問 蓮尾委員長

メモリアルハイツであるだとか、あかねの比較的新しい住宅等の外壁がかなり古くなってきており、把握しているのか。今後の見通しと耐用年数等を超過している築年数の古い公営住宅について、維持管理費もあるので、引っ越しを促すなどをしながら、集約していく必要があるとは思うのですがそこら辺について伺う。

答 建設課参事

公営住宅は、修繕計画を策定し古い順番に実施する、いわゆる長寿命化ということで国から予算をいただいて、屋根だとか外壁、外回りだけですが実施しています。今年からあかねの拡充団地の設計に入っており、一番古い建物から順番に計画に基づき実施しております。昭和50年ぐらいに建てられたあかね団地に住まわれている方は結構おり、何世帯かは引っ越してもらい、解体を実施し、今ある建物は長寿命化するための計画により進めています。

教育費

問 蓮尾委員長

社会教育施設費の郷土資料館及び青少年柔剣道場運営事業で、今図書室の蔵書は増えてきていると思うのですが、新しい施設ができた際にその蔵書はそのまま使われるのか、新しいものになるのか伺う。

答 教育次長

順次図書の購入を進めていますが、新しい施設で想定しております蔵書数は大体4万冊を想定しており、そこに向けて図書の購入を進めています。

現状、図書室にある図書と学校にある図書含めて大体2万6千冊ぐらいしかない状況で、今年度もある程度冊数を導入していく予定で、既存の図書の分類の偏りを整理しながら進めていくこととしております。

町税

問 吉田委員

軽自動車税で、若干滞納者が増えているようですけども、滞納者の所有の内訳と、バイクと軽自動車の割合はどのぐらいあるのか伺う。

答 総務課住民担当課長

軽自動車税の内訳ですけれども、全部で12件なのですけれども、そのうち2名ほど年度をまたがって重複している方がいます。令和5年度は2名4台、令和6年は1名で、令和7年度で10名で、その内訳は5ナンバーの軽自動車7台、軽トラック5台、軽2輪2台、トレーラー1台、原付1台、16台となっています。

国民健康保険事業特別会計

問 吉田委員

次年度に繰り越す額がこの3年の間に約1，400万円減っている。1人当たりの医療費が上がっていることも要因と考えるが対策について伺う。

答 保健福祉課長

繰越金は年々減少傾向にあることから、原因の分析が必要と認識しております。2030年に向け、保険税の全道統一化の取り組みの検討を進めますが、影響についても今後検証する必要があります。今後の医療費の推移や納付金等の動向を見極めながら医療費の適正化や、特定健診などの保健事業の推進に取り組み、北海道とも連携をしながら国民健康保険事業の安定的な運営に努めていきたい考えております。

国民健康保険病院事業会計

問 星川委員

入院患者が少なくなっている要因について伺う。また、介護医療院については、令和6年度に比べ、令和7年度も看護師の不足だったのか伺う。

答 国保病院事務長

入院患者数の減は、長寿園ですとか厚生園の利用者の患者数の影響も大きな要因としてあるのと、入院患者自体、年によってばらつきがあるので、正確な理由というのは把握できていませんが今後整理していきたい。介護医療院については令和6年度の途中から正職員の看護師が不足してきており、新しい利用者の受入れの部分に影響している状況となっております。

全会計

問 星川委員

病院の看護師の勤務体制について、12月から新しい病院に移行する予定と

は思いますが、現在の夜勤体制、日直は看護師が2名と補助員が1名という体制なのか伺う。病院の説明会で夜勤体制は病院の看護師が1名、助手が1名と町長が言っていましたが、この2名体制で本当にいいのかということと看護師とも話合って進めているのか伺います。12月で介護医療院が廃止になるということで、最終的に黒字になったのが最初の半年で、その後、赤字経営となり、あわせて介護医療院を開設するために費用をかけて病室を改修したが、町長は介護医療院を実施してよかったと考えているか伺います。

答 国保病院事務長

病院の日勤帯は、職員2名ないし人数が少ないときは待機をつけるなど、日によって様々ですが、多いときで介護医療院の日勤者を含めて土曜、日曜でも3名いるときもあり、そのときの職員の配置状況によって人数は変わります。夜勤は、今現在看護師が病棟側で2名、それに介護職が1名の計3名でやっています。

答 小林町長

介護医療院の開設に当たっては、一定期間の経過的な措置と考えてスタートしています。基本的には、中頓別町で最後まで看取るというところを大事に考え、医療で入院として受け入れることができない一方で、特養でも受け入れることが難しいという方がいらして、町外の施設や病院に行かなければならないというのを見てきました。それを、100％とはいきませんけれども、この町で最後まで看取れるという仕組みをつくっていくことを主に考えての措置と。そのときの想定としては特養に看取れる機能を移し、それを継続していこうということであったと思います。なかなか限られた、医療、介護の資源の中では100％とはいきませんでしたけれども、そういう意味では町で看取るというところを多く実現できたというふうに私は思っています。今回廃止に当たっても有床診療所の中で今までと同じように介護し看取れるようにしていきたいと考えてのことであります。看護師の体制について、確かに看護師の負担が増えることは間違いないとは思いますが、現状の入院と介護医療院の入所者、この範囲についてはやってもらえると看護師の中で理解をしていただいているというところであります。状況によっていろいろ変化すると思いますので、その辺は柔軟な対応をしていかなければいけないところがあると思いますけれども、看護職員の理解を得て有床診療所に移行していくということであります。

問 宮崎委員

基金残高の状況について、残高は億単位で目減りしているというところで、極端な話、全くなくなるということもないとは思うのですけれども、基金残高がそれに近いような状況になった場合、行政運営自体が全くできなくなるというわけでもないと思うのですけれども、町の独自採算の費用が多い事業だったりとか、そういったところが制限されていくのではないかなというふうに思いますが、それも致し方なしというスタンスでいくのか。財政調整基金は最低限、何億円残すのかというところ、今後に向けて伺う。

答 小林町長

もともと財政調整の基金として財調と減債基金合わせて15億円ぐらいの基金があり、ここを最低限とし、プラス政策的な目的のための基金として維持をしながら、継続的に政策遂行ができる環境をつくっていくことは必要だと思っています。当町は管内の中でも財政規模からすると比率的高い基金を持っていますが、税収は増えているが、それ以上に公債費が増えているところもあり、うちの規模になると交付税は増えているとはいっても、実質的な公債費の償還分を除くと増えていなかったり、今年度、逆にマイナスになったりというような状況が続いているので、財政的には楽観できない状況だと思っており、安定した財政運営をしていくためには一定規模の基金は不可欠で行革のほうとも協議し安定、安心していただけるような、財政状況となるよう努力したいと思います。

決算審査特別委員会 審査意見

① 今後、行われる行財政改革にあたり、内容について事前に協議説明を行う機会を設けることにより透明化を図ることを望む。

② 有床診療所への移行にあたり住民に不安を与えないよう持続可能な運営の見通しを作成し、既存の施設の有効活用と予算について現実的な計画を示すこと。

③ 今後人材の確保が困難になることが明確なことからＤＸやＡＩの活用を行うことが必要になると考えるので、今後のＤＸ等の見通しについて明確にすること。

議会の動き

7月

24日　第５回臨時会
28日　久留米市議会行政視察受入

8月

18日　議会広報研修会（札幌市）
20日　楢原民之助氏追悼慰霊祭
　　交通事故死亡者慰霊祭
　　無縁故者法要
21日　老人クラブ連合会会員物故者追悼法要
　　議会運営委員会
28日　議会運営委員会
29日　自由民主党定期大会及び政経セミナー
　　（稚内市）
30日　自民党移動政調会（稚内市）

9月

８日～10日
　　第３回定例会、決算審査特別委員会
11日　いきいきふるさと常任委員会（工事視察）
18日　議会広報編集特別委員会
25日　敬老会
　　南宗谷衛生施設組合定例会（浜頓別町）
26日　オホーツク枝幸ひまわり基金法律事務所新所長就任のご報告と懇談の会（枝幸町）

10月

２日　議会広報編集特別委員会
14日　議会広報編集特別委員会
23日　第６回臨時会
26日～29日
　　いきいきふるさと常任委員会道外視察
　　（智頭町、西粟倉村）
30日　南牧村議会行政視察研修受入

行政視察の受け入れ

久留米市議会行政視察の様子
（７月28日）

星川議長、西浦副議長、宮崎議員、
長谷川議員（参加議員　計４名）

７月28日に福岡県久留米市議会（緑水会）による行政視察の受け入れを行いました。本町の「なかとんべつライドシェア」の取り組みの視察が行われました。



発　　行　中頓別町議会
編　　集　議会広報編集特別委員会
お問合せ　北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
　　tel（01634）6-2244（直通）
　　fax（01634）6-1155

編集後記

今定例会では決算審査が行われ、予算の執行状況に関することなど、さまざまな質疑が交わされました。また、議員からの一般質問では、国保病院から有床診療所への移行についての話題が多く取り上げられ、影響を危惧する声を改めて感じる議会となりました。

議会広報を編集していると、限られた紙面の中で、議会でどのような議論が行われたのかを、いかに分かりやすくお伝えするか、その難しさを毎回感じます。

議会だよりを手に取っていただき、「こんなことが議会で話し合われているんだ」と少しでも議会を身近に感じていただき、議員や職員に詳細を聞くなどしていただけることが行政への理解がさらに深まるきっかけになるかと思います。

木の葉も色づき、秋も深まるなか、朝晩の冷え込みが厳しくなる季節を迎えます。皆さま、体調管理には十分お気をつけてお過ごしください。



議会広報編集特別委員会（蓮）